

「災害時要援護者」の支援体制づくり

高齢者や障がい者、妊婦、外国の方等、災害時に支援が必要な方を「災害時要援護者」といいます。

災害が発生したら、安全な場所へ迅速に避難することが重要ですが、ご自分では避難することが難しい方や、ご家族だけでは援護の手が足りない場合等、災害時要援護者を地域で支え合う体制づくりが求められています。



- 1 平常時から「災害時要援護者」の情報を把握しておくこと
(※個人情報の保護に留意し、本人の同意を得るとともに、情報管理には十分な注意が必要です。)
- 2 「災害時要援護者」それぞれの支援者(できるだけ複数の方)をあらかじめ決めておくこと
- 3 避難訓練を行い、実際に避難してみることで、支援体制に問題点がないか確かめておくこと
等が必要です。体制づくりは、受援者となる方の意見も取り入れて行うことが大切です。

中学生は地域防災の大きな力

地域防災の担い手を育てる取組みの一つとして、住民と中学生とが一緒に活動に取り組む事例があります。炊き出しや高齢者の避難補助など、いざというときに中学生の力を借りたいと思う役割を任せ、訓練を実施している地域もあります。相乗効果として親の参加率が増え、住民の訓練に参加する姿勢も変わり、地域とし

ての取組みも活性化します。何より彼らは、普段から地元をよく知っているのです。



■避難訓練



■高齢者体験

防災・減災備L(そなえる)ガイド～地域防災編～はじめての「自主防災活動」～

平成25年3月 発行／愛知県

○編集協力(五十音順、敬称略)

小栗 宏次 愛知県立大学 情報科学部 教授

国崎 信江 危機管理教育研究所 代表

栗田 暢之 特定非営利活動法人レスキューストックヤード 代表理事

廣井 悠 名古屋大学 減災連携研究センター准教授

福和 伸夫 名古屋大学 減災連携研究センター長

備える 防災 減災 ガイド

～LIFE<命・生活> LOVE<愛>～

地域防災編

～はじめての「自主防災活動」～



あいち防災キャラクター
防災ナマズン

災害はいつ起こるかわかりません。この「防災・減災備L(そなえる)ガイド～地域防災編～」は、地域の防災・減災の力として期待される“自主防災組織”の活動をはじめようとされる方に向けた、理解が深まる備L(そなえる)ポイント付の入門編防災チェックガイドです。あなたの命(LIFE)、愛(LOVE)する人との生活(LIFE)を守るため、合言葉は「できることから備L(そなえる)、今すぐに備L(そなえる)」です。



あいち防災協働社会推進協議会